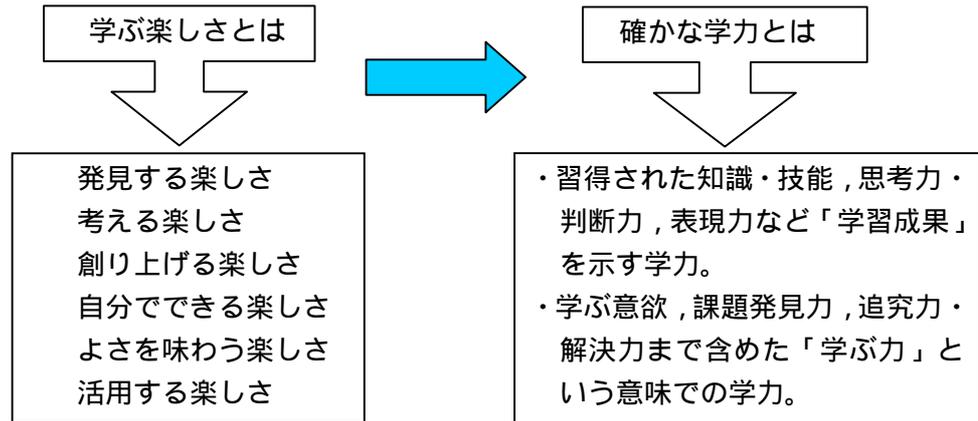


副題について

「自ら学ぶ子ども」とは、自らの課題や目標を明確にしながら学習の対象に意欲的にかわり、追究し、学習したことを様々な場面で生かすことができる子であると考え。

算数科においては、作業的・体験的な算数的活動を通して意欲的な思考活動へとつなげていく。そして、工夫して課題を解決する過程を重視することで、数学的な考え方や数量・図形に関する豊かな感覚を育成していく。

子どもたちは、体験を通し、実感を伴って納得し理解できたときに学ぶことの楽しさを感じ、「わかった」「できた」という充実感・満足感が自信となり、新たな活動への意欲につながり、基礎・基本が生きてはたらく確かな学力として身につけることができると考えられる。



生きる力

- ・子どもの実態や思い・願い，保護者や地域の願いを大切にし，豊かな人間性の育成と健康・体力づくりなどが，基礎・基本が生きてはたらく確かな学力となり，それらが統合されて，生きる力が身につくと考える。

研究の見通し

- ・どのような子どもの姿が「自ら学ぶ子ども」の姿なのか，という観点から次の，

- (1) 知的好奇心が旺盛な子
- (2) 見通しをもって課題解決する子
- (3) よりよいものを追究する子
- (4) 互いのよさを認め合える子
- (5) 学んだことを活用する子

の5つの「めざす子どもの姿」を明確にする。そのためには，どのような力をつければよいのか，実態を把握し，低中高学年の発達段階に応じて，算数における「育てたい力」に焦点を絞り考えていく。また，子どもの実態や習熟状況，学習内容に応じて，指導体制・指導方法の改善・工夫に努める。

研究の内容・方法

- ・子どもの学ぶ意欲を引き出し，確かな学力を身につけることができるように，次の3点を研究の重点とした。

重点 楽しさと充実感を味わう算数的活動を取り入れる。

- ・子どもが目的意識を持って主体的に取り組む算数的活動（作業・体験・調査・探究・発展・応用・総合的な活動・具体物を用いた活動）を通して，算数を学ぶことの楽しさと充実感を味わえるようにする。

重点 学習の状況に応じたきめ細かな指導をする。

今年度から全学年において、算数科を中心に少人数学習・T.T.に取り組んでいる。

第1学年は、拡充でのT.T.

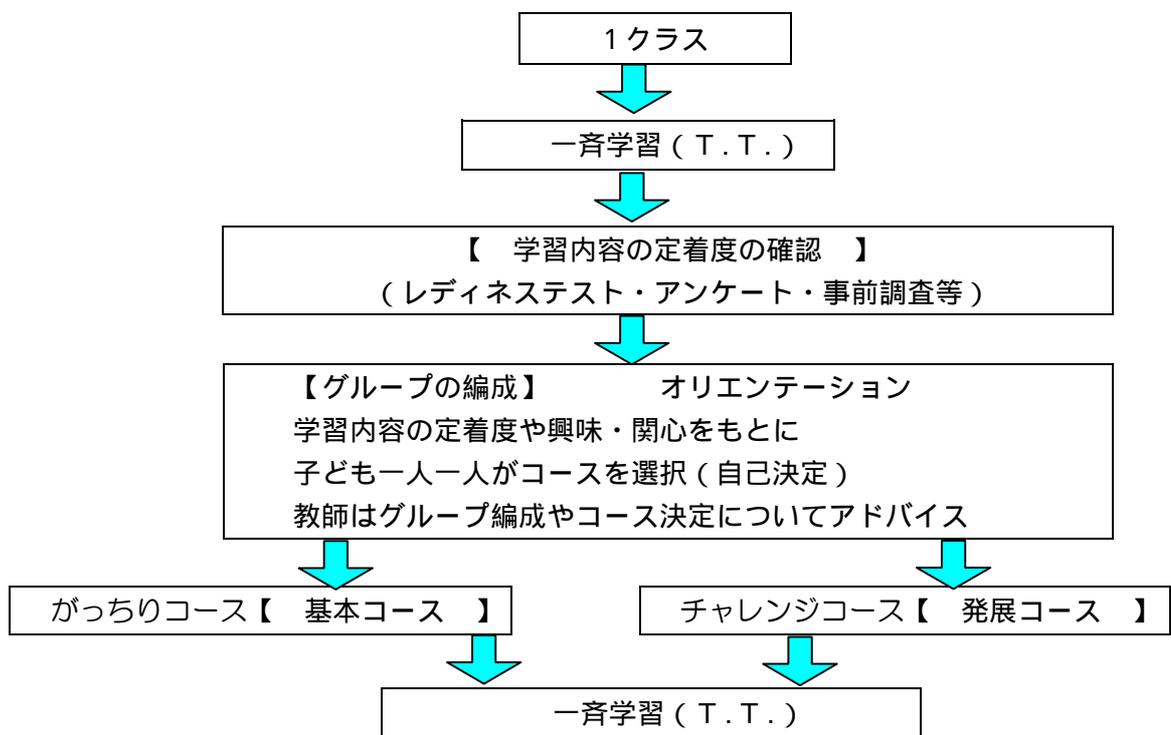
第2学年と第3学年は、T.T.を中心に、少人数学習にも取り組む。

第4学年～第6学年は、少人数学習を中心に、T.T.にも取り組む。

【少人数指導の実践を通して】

学習集団編成の方法について 1学級，2分割の（1C・2T）で学習集団を編成
（少人数学習では、みんなが認められる温かな学級集団づくりや各クラスの
雰囲気大切にしながら）

- ・習熟度別学習・・・学習内容の理解・習熟・定着の状況に応じてグループを編成
- ・課題別学習・・・子どもの興味・関心をもとにグループを編成



<学習コースを自己選択するための配慮について>

事前に学習内容やコースの特徴を十分に説明する。

選択にとまどいがある子どもに対しては、適切なアドバイスをして不安を解消する。
グループが固定化しないように配慮し、教師も他のコースを担当し児童理解に努める。

習熟度別では、それぞれのコースのよさを説明し、単元の途中でもコースを変更できるように計画する。

<指導方法の工夫について>

補充的な学習や発展的な学習の教材開発に努める。

基本コースは、じっくりと繰り返し学習や復習に取り組めるようにする。また、つまづいた子どもには、よりよい考え方につながるような教具や教材を提示する。

発展コースでは、自力解決で発展的な課題や練習問題等にチャレンジできるように工夫する。

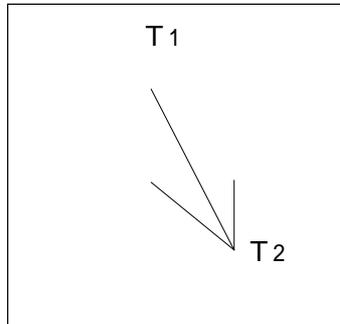
単元の学習内容に応じて、学習形態を変えながら、一人一人の個性や習熟に応じた

学習を行う。

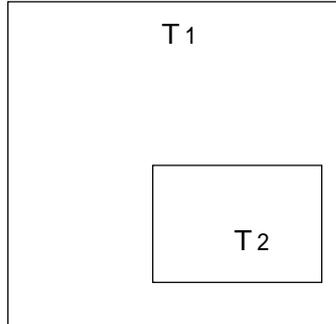
【T.T.の実践を通して】

学習内容や児童の実態に応じて、次の5つの形態でT.Tに取り組んでいる。

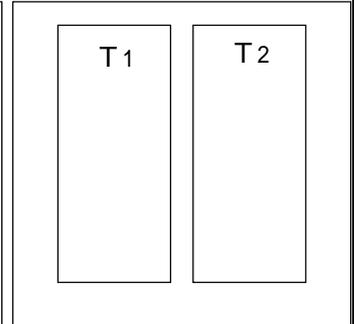
T1 全体 T2 補助指導



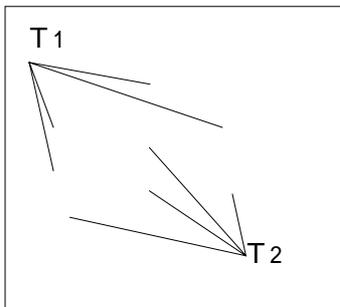
T1 全体 T2 取り出し指導



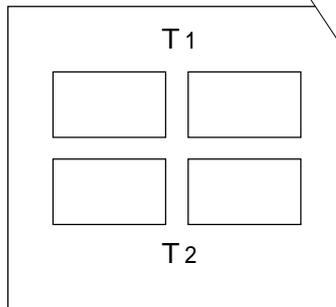
学級を分けて指導



2人で個別指導



グループ指導



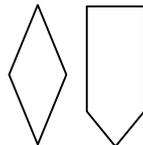
グループ分けの観点

- 思考スタイル
- 方法
- 生活経験
- 興味・関心
- 到達度
- 速度

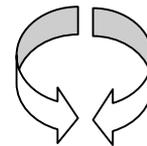
< 指導案上にも3つの学習形態を表示 >



...T.T.



...少人数学習



...課題別学習

重点 受容的、肯定的に評価し、指導に生かす。

学習計画や指導案の中に評価規準・評価場面・観点・方法を位置付ける。学習結果だけでなく、過程におけるよい点や進歩の状況、可能性を受容的、肯定的に評価し、指導に生かしていく。自己評価・相互評価も取り入れる。

指導と評価の一体化をめざし、効果的な支援ができるように、1時間の授業では評価の観点を1～2項目に絞り、評価の重点を明らかにして取り組んでいくことにする。

評価方法

行動観察・発言内容・ワークシート・作品・ノート・ペーパーテスト・挙手・表情・ネームプレート等

【**座席表や補助簿などを活用し評価を行い、指導に生かす。**】

子どもの自己評価・相互評価

各学年の実態に応じたふり返しカード・ノートを活用

【**学習に対する意識を高め、自分の学習態度や習熟、理解の状況についてふり返る。**】

【**友達のがんばりやよさを認め、共に学ぶ楽しさを味わう。**】

少人数学習の場合は、各コースの教師が評価し、授業後に子どもの様子や習熟の状況について情報交換を行う。

学年初めと各学期末には、＜聞く・話す・書く・態度・算数の力＞に関して、5項目・25観点について学習の振り返りを行う。

実践記録の活用し、支援や評価に生かす。

各学年の打ち合わせ時間を確保し、時間割上に明記する。

少人数指導・T.T.の打ち合わせ記録を取り、指導法の改善に努める。

保護者との連携 子ども・保護者対象のアンケート調査の実施・結果の公表・授業公開・学校便り・学級懇談会などを通して、保護者の理解を図る。

フロンティア専門部会

(確かな学力は、豊かな心に裏づけされた温かな人間関係が育つ学級経営を基盤として成り立っており、今年度から研究を支えるために、研究組織の中に3つのフロンティア部会を立ち上げた。)

1. 学習環境(すくすく)委員会

・自主学習の取り組みとして、毎朝、10分間、朝自習に取り組んでいる。

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝自習	漢字 こっこつ タイム	計算 すいすい タイム	さわやか 読書	計算 すいすい タイム	漢字 こっこつ タイム
学習内容	漢字練習	計算練習	読書	計算練習	漢字練習

計算プリント・・・既習した基礎・基本の定着を図る。

【約50種類、4コースのプリントの中から、学年枠をはずし、子どもが自己選択する。】

さわやか読書・・・本に親しみ情操を高め、心豊かで思いやりのある子の育成を目指す。

漢字練習・・・繰り返し練習することで習熟を図る。

- ・低・中・高に応じた算数クイズやパズルなどの算数コーナーを設置する。
- ・振り返りカードの工夫をする。
- ・学年に応じた話し方のきまりを掲示し、「聞く・話す態度」を育てる。
- ・毎月1回、木曜日には『おはなし会』を開いている。
- ・図書館ボランティアの来校、図書館の環境整備や図書を紹介している。

2. 学級経営(ほのぼの)委員会

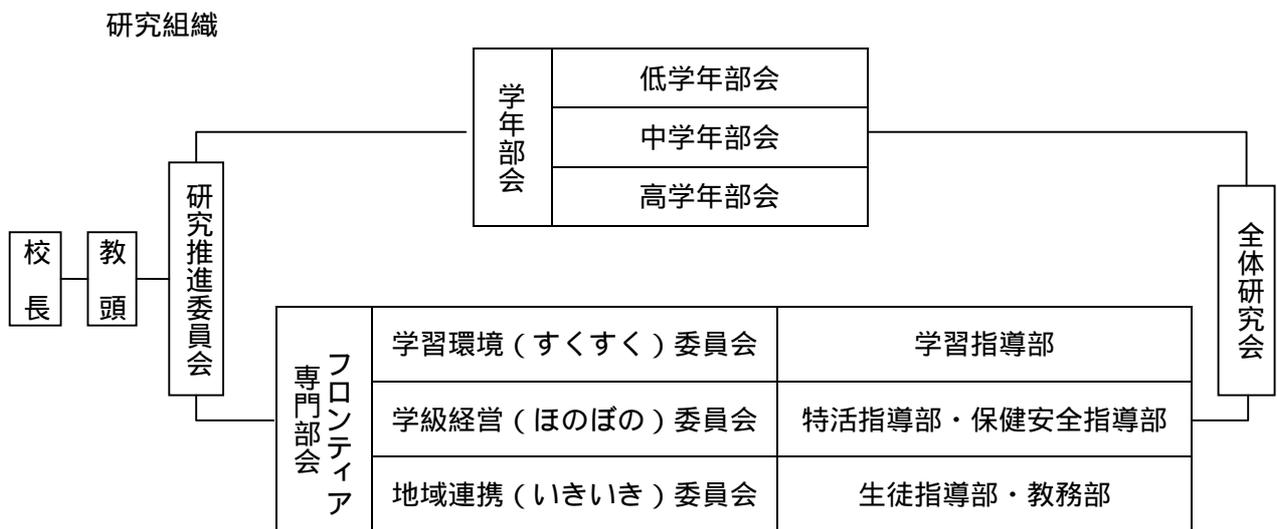
・1年生を迎える会・毎週、火曜日の長休みに行われるわんぱくタイムでの異学年交流・全校児童での海浜クリーン作戦・保護者や地域の方、給食センターの職員の方とのほのぼの給食・特別支援教育活動での他校との交流・すこやか保健室でのヘルスカウンセリングなどからは、温かい心の交流が生まれている。

3. 地域連携(生き生き)委員会

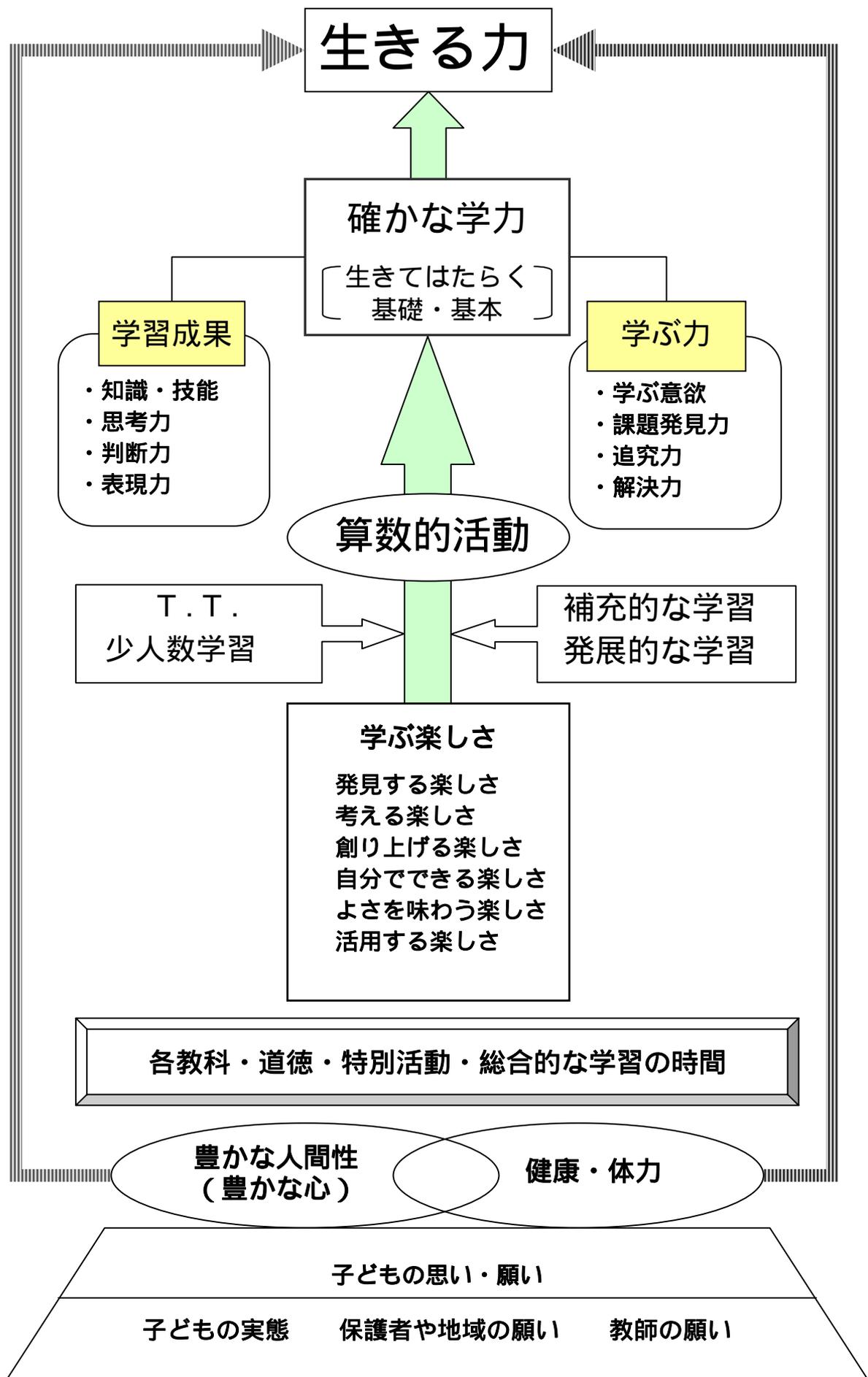
・毎朝の挨拶運動・『ほほえみポスト』の設置と『ほほえみカード』の活用・地引網・砂の芸術・全校児童での海水浴、春・秋の資源回収など、PTA・地域と協力しながら活動を進めている。

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>自ら学ぶ子どもをめざして</p> <p>研究の見通し</p> <p>楽しさと充実感を味わう算数的活動を取り入れる。</p> <p>学習の状況に応じたきめ細かな指導をする。</p> <p>受容的，肯定的に評価し，指導に生かす。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>めざす子どもの姿と育てたい力の設定</p> <p>研究の重点を意識した授業実践（算数を中心として）</p> <p>学級経営による温かい人間関係づくり</p> <p>少人数指導・T.T.の実践</p> <p>朝自習における計算プリントの取り組み</p> <p>学力向上フロンティアスクール事業のまとめ</p> <p>研究成果の普及</p>	<p>学ぶ楽しさを通して，確かな学力を</p>	<p>子どもの学ぶ意欲を引き出し，確かな学力を身につけることができる。</p>

(3) 研究推進体制



- ・研究推進委員会.....研究の方針，進め方など全体的な計画，立案を行う。
校長，教頭，教務担当，研究担当，各学年代表で構成する。
- ・全体研究会.....研究推進委員会からの提案をもとに，研究主題に迫るための協議をしたり，共通理解を図ったりする。
必要に応じて講師を招聘し，研究を深める。
- ・学年部会.....研究授業を中心に研究実践をする。
- ・フロンティア専門部会.....学習環境を整え，温かい人間関係や望ましい生活態度を育成し，家庭・地域と連携して子どもたちがよりよく成長するための活動を推進する。



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

子どもの学ぶ意欲を引き出し、確かな学力を身につけることができるように、研究授業を中心に研究実践を積み重ねてきた結果、次のような成果を得ることができた。

基礎的・基本的な学習内容をふまえて、教材・教具の工夫をしたり、作業的、体験的な算数的活動を取り入れたりしたことで、より多くの子が興味・関心を持続させながら、目的意識をもって学習に取り組むようになってきた。算数は楽しい、おもしろいという意識の子が増えた。

算数的活動を学習過程の中で取り入れることで子どもたちの多様な考えを引き出したり、絵などの具象的思考から図などへの抽象的思考へとつなげたりすることができた。

ストーリー性を持たせたり、身近な物を活用したり、操作活動の時間を十分に確保したりすることで、子どもの意欲を喚起させ、理解を深めることができた。課題に対して自分の考えを持ち、意欲的に取り組む姿が見られるようになった。

「算数コーナー」を設置したことで、いつでも算数のおもしろさや楽しさを体験することができた。数や量、図形に親しみ、進んで考え、取り組む子どもが増えてきた。

ヒントコーナーを設置したり、自己選択ができる繰り返し学習を取り入れたりすることで、基礎・基本の定着につなげることができた。

単元の学習内容によって、少人数指導やT・T、習熟度別学習、課題別学習を効果的に組み入れることで、一人一人の考えや習熟の状況に応じてより細かな支援ができた。

課題解決学習では、話し合う場を大切にすることで、既習事項を生かして自分なりの方法で問題を解くことができるようになってきた。また、解き方を重視するようになり、自分で考えようとする意欲や態度が身につくとともに、少しずつではあるが、よりよい方法で解決しようとする力がついてきた。

一斉学習ではあまり発言できなかった子どもも、少人数学習では進んで発言や質問をするようになり、意欲が見られるようになった。

習熟度別学習では、子どもが自分に合ったコースを選択したり、コースの修正をしたりできるようになり、自己評価力が少しずつ身についてきた。また、それぞれのコースの子どもたちに応じた教材や教具を開発したり、工夫したりすることで、一人一人が主体的に学習に取り組めるようになってきた。

T1とT2が、協力し連携しながらきめ細かな指導をすることができた。机間支援ではつまづいている子に対して、素早く対応ができ、より多くのかかわりをもちながら支援ができた。普段は時間がかかる子どもも、「わかった」「できた」という充実感や満足感が、励みや自信となり、他の活動にも意欲的に取り組めるようになってきた。

例えば、「数量関係」・「数と計算」領域は習熟度別学習、「量と測定」領域は課題解決学習、「図形」領域はT・Tなど弾力的に取り組むことにより、より効果的な指導につながった。

少人数・T・T担当者と各学年の学級担任との打ち合わせ時間の確保と充実を図れたことにより、配慮すべき子どもや支援を必要とする子どもへの対応についてなど、細かな点まで情報交換し共通理解できたことが、効果的な支援へとつながっていった。

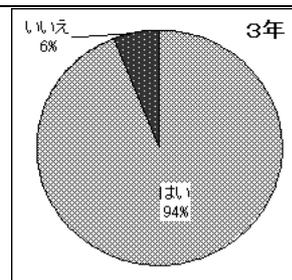
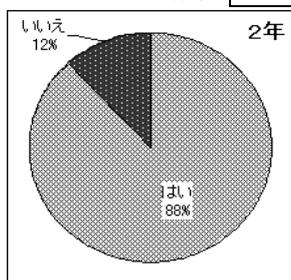
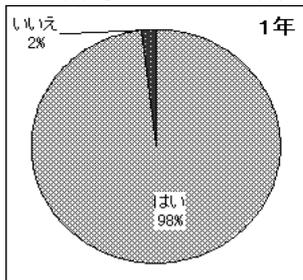
授業を振り返って、一言感想や、マーク（顔の表情）などでの自己評価を取り入れた。振り返りを定着させることで、子どもの思いや理解度を把握することができ、評価や次の指導に生かすことができた。子ども自身も、自分の成長、変化に気づくようになった。

話している人に反応しながら聞くこともできるようになった。説明が苦手な子も、図と言葉を使い、相手を意識して自分の考えを説明できるようになってきた。そして、他の考えから学ぼうとする子や友達の意見を補足できる子も増えてきた。

少人数指導、T・Tに関するアンケートの結果からは、1年～3年の児童の90%以上が、「2人の先生に教えてもらうことは楽しい」と感じていることがわかった。3年～6年までの少人数学

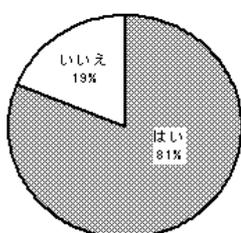
習においても、全体で80%以上の児童が楽しいと感じていることがわかる。保護者のアンケート結果からも、低学年・高学年のどちらも80%以上の方が肯定的・好意的にとらえていることがわかり、少人数指導・T.T.に対する期待の大きさを強く感じた。

少人数指導・T.T.に関する児童アンケートの結果 2人の先生に教えてもらうのは楽しいですか

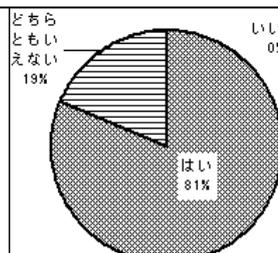


少人数指導・T.T.に関する保護者アンケートの結果

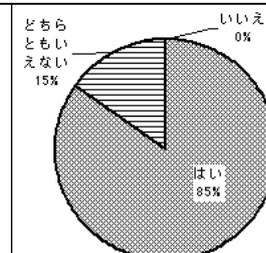
・少人数・TT で算数の授業が行われていることをご存知でしたか。
〔はい・いいえ〕



・少人数・TT で学習できることは、よいことだと思いますか。
〔はい・どちらともいえない・いいえ〕



・それぞれのコースで教科書以外の学習もしていくことはよいことだと思いますか。
〔はい・どちらともいえない・いいえ〕



2. 今後の課題

楽しい算数的活動を取り入れる場合、習熟の時間も確保ができるように、基礎的・基本的な内容を明確にして取り組んでいく必要がある。学習していく上で、今、自分はどんな活動をすればいいか、自己判断し目的意識をもって活動できるような態度を育てていくことも大事である。

たくさんの子どもがいろいろな楽しい体験ができるように、算数コーナーの内容をさらに工夫し、充実させる。

アンケートの結果では、子どもたちや保護者からはT.T.・少人数学習（習熟度別学習・課題別学習）に対しての期待も大きく、好意的であった。今後も、授業を公開したり指導の成果を知らせたりするなどして、理解を深めてもらえるように努める。

文章題を読んで学習場面をイメージしたり、自分の考えを図や絵や文章で表現したりする力がまだ弱い。発表の声は小さかったり、特定の子どもに発言が偏りがちであったりするので、自分の考えをうまく伝えられるように表現力をつけていく必要がある。

少人数学習・T.T.の打ち合わせでは、指導内容と指導計画をより明確にし、子ども一人一人に応じた評価と支援が行えるように、共通理解を充実させていく。

学年枠をはずした計算プリントが、個人差に応じて有効に進められるように、問題数や難易度、進め方など見直していく。

振り返りを書く時間を確保し、自己評価を習慣化していく。評価規準と合わせて、評価したことが、子ども一人一人に応じて本時だけでなく以後の指導にも生かせるように、継続的・効果的に記録していく。

(子どもたちの思いや願いを大切に、自ら学び、自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個を生かす教育の充実に努めてきたが、残された課題もある。今後も、指導法の改善・工夫に取り組み、子ども一人一人の「確かな学力」の向上に向けて、研究を進めていきたい。)

学力等把握のための学校としての取り組み

- ・平成15年5月1日
第6学年を対象に、県の『基礎学力調査』を実施した。国語・社会・算数・理科の4教科における児童の基礎学力の定着状況を把握するとともに、県の結果と自校の結果を分析した。
- ・平成15年5月1日
第2学年～第5学年を対象に、学習指導要領に準拠した算数科の領域別標準学力検査を実施した。調査結果をもとに、指導方法の工夫・改善を図った。
- ・平成15年7月・12月
児童・保護者対象のアンケート調査を実施し、それらの意見をもとに、参観日に少人数指導やT・T・の授業公開を行ったり、指導方法の改善や教具や教材の工夫等を行ったりした。
- ・来年度初めに、国語・算数の学力検査を実施予定

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年11月28日(金)
金沢地区を対象にして『学力向上フロンティア事業中間発表会』を開催した。算数科の少人数指導、T・T・の提案授業を中心に全教科の公開授業を行った。県下から約200人の参加者があった。研究収録・紀要を作成し、配布した。公開授業後の全体会では、本校の研究の概要や成果について説明した。また、分科会では、算数の提案授業をもとに学力向上について協議した。
- ・平成15年4月・7月
保護者に対して、アンケートの結果と具体的な指導方法や指導形態の工夫について説明する機会をもったり、資料を作成したりして連携しながら理解を図るようにした。
- ・平成15年11月14日(金)
フロンティアスクールのパネラーとして、金沢市立西南部小学校の『学力向上フロンティアスクール事業公開発表会』に参加した。本校でのフロンティアの取り組みや研究成果について説明することができた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	・14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 ・13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	・少人数指導 ・一部教科担任制	・T・T・による指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	・算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	・有	無		